

【教育目標】 英知の風かおり 友愛の情ふかく 精励の志つねに

中野だより

令和3年 5月26日 発行 第35号 発行者:中野区立中野中学校

鉛筆の話

近頃、小学生の学校生活に欠かせない筆記用具の鉛筆に大きな変化が起きている。小学校で使われている鉛筆の主流が、「HB」から「2B」に変わった。

某テレビ局が行った都内小学校の取材結果では、1年生の教室では31人中27人が「2B」を使用、6年生の教室でも34人中24人が「2B」を使用していた。使う鉛筆を「2B」に指定(推奨)している小学校もある。その理由は子どもたちの筆圧にあるという。

子どもたちの体力低下が叫ばれて久しいが、それに伴って筆圧も弱くなった。そのため筆圧が弱くてもはっきりとした文字や線を書けるよう、「2B」を指定(推奨)する小学校が増えた。「2B」は太く書きやすいので、基本の「とめ、はね、はらい」も覚えやすい。一方、「HB」のような硬い芯で書いた文字は、間違った時に消しにくい。消えにくい文字を消すために消しゴムで強くこすった際に紙を破いてしまい、書く意欲が低下したという人も多だろう。「2B」の鉛筆使用の背景には字を覚え始めた児童がそうならないための配慮もある。

あるメーカーの鉛筆の売り上げは、1999年は「HB」が43%、「2B」が22%。「HB」は「2B」の約2倍だったが、2006年に逆転。現在では「HB」の20%に対し、「2B」は51%と全体の半分以上を占める。かつて「HB」を選んでいた大人達が鉛筆を使用しなくなったことの影響も多少はある。自身も文字使用はパソコンやスマートフォンに頼り、鉛筆は会合に出席した際に受付名簿に○を付ける時と、選挙の投票の時に使う程度。そのためか最近では漢字を書こうにも思い出せないことが多いが、それは鉛筆使用に関係なく、単なる老化であるとの指摘は免れない。ともかく、漢字を繰り返し練習した少年時代のように「とめ、はね、はらい」に注意しながら鉛筆で丁寧に書く時間があってもいいかもしれない。

昔、恩師にこんなことを言われた。

「濃い記憶は、時間の経過とともに薄れ、いずれ忘れる。しかし、薄い鉛筆の記録は決して消えない。大事なものは『記憶より記録』だ。」

——— 言い得て妙である。



運動会 同心戮力 ～心をひとつに勝利をつかめ！～

今年度の運動会は、スローガン「同心戮力 ～心をひとつに勝利をつかめ！～」を掲げ、5月20日（木）～22日（土）の3日間、学年別に開催しました。緊急事態宣言下であったため、全校での開催はできず、縮小開催となりましたが、毎年恒例の短・中距離走や全員リレーをはじめ、工夫を凝らした学年種目に汗を流し、一人ひとりが活躍できた運動会となりました。

昨年度に引き続き、無観客での開催になり、保護者の皆様や地域の方々には直接ご覧いただくことはできませんでしたが、生徒たちは一生懸命取り組むことができました。ぜひご家庭で励ましの言葉をかけていただけたら幸いです。

1年生（5月21日・金） 学年スローガン「団結・全力！」



△「3人組リレー」息を合わせて！



△「選手宣誓」堂々としています！



△「玉入れ かごは担任」玉を入れる生徒、防御する生徒、担任、みんな必死でした。

2年生（5月20日・木） 学年スローガン

「力を合わせて勝利をつかみ取れ！
うお～っと思ひ出も！」



◁「100m走」全力疾走！



△「選手宣誓」立派な態度です。



△「三角綱引き」3クラス同時の綱引き

3年生（5月22日・土）

学年知-ガン「先陣を切り悔いなく笑え 最高学年としての誇りを胸に」



△「選手宣誓」さすがは3年生。



△「4×150mリレー」ゴールシーン



△「竹取物語と玉手箱」
竹の棒や玉や玉手箱・・・
引っ張り合い、自分の陣地へ運びます。

閉会式 表彰は体育館で行いました



離任式を行いました

5月14日（金）6校時に離任式を実施しました。昨年度は臨時休校により、離任式が取りやめになったため、2年ぶりの実施となりました。今年では中野中を去られた6名の先生方全員が出席され、2年生が体育館で、1・3年生は教室でのリモート配信により式に臨みました。式では、代表生徒からお別れの言葉と花束贈呈を行い、その後離任された先生方から在校生へお話をいただきました。在校生は大変立派な態度で耳を傾けていました。



佐藤 洋先生（保健体育科・5年間勤務）

先日、プロ野球の試合に、中野中の前身の中央中・九中の卒業生が出ていました。その選手が大事な場面でホームランを打ち、私が応援していたチームは負けてしまったのですが、悔しいという気持ちは生まれなかった。選手は私のことは知らなくても、中野中という共通点で、人のつながりをもつことができます。そうした出会いを大切にしてください。



小宮 恵先生（英語科・3年間勤務）

新しい学校には、いろいろな色の壁とその解説が書かれています。同じ青でも一つ一つが異なり、好みもあるが、それは人間でも同じことが言えます。人は色々な人がいて、それを認め合う。校舎は私たちを見守ってくれます。出会いを大切に、素敵な学校生活を送ってください。



古川 絢子先生（特別支援教室・1年間勤務）

この1ヶ月近く、慣れない環境の中で仕事を頑張りすぎてしまい、連休中は何もできなかった。みんなには、頑張りすぎないことも大事だということをお伝えしたいです。時には息抜きや肩の力を抜くこともしてください。



涌井 玲先生（国語科・4年間勤務）

中野中は私が教員としてスタートした学校で、第二の母校として思い出に残る学校です。みんなには、好奇心をもち、チャレンジしてほしい。消極的な気持ちで臨むと、自分に限界を決めてしまい、成長のチャンスをなくしてしまう。成長の根源には好奇心があるので、それをぜひ持ち続けて学校生活を送ってください。



布谷 由美子先生（養護・6年間勤務）

新しい学校に勤務して、緊張することも多かったが、生徒からの挨拶のおかげでほっとすることができました。感染症防止に向けた対応も2年目となり、疲れも出てくるでしょうが、適度にリフレッシュして日々の生活を過ごしてほしいです。



倉田 年志和先生（数学科・1年間勤務）

中野中は、一昨年に教育実習をして、自分も教師になろうと決意した思い出の学校です。中学校では、いろんなことをたくさん経験して、濃い3年間になるよう、いろいろなことに挑戦してほしいです。

